

## 「天の父のゆるし」—マタイによる福音書講解説教 78—

## マタイによる福音書 第18章 21節～35節

説教 岡村 恒牧師

「その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。」(マタイによる福音書 第18章27節)ペテロは疑問を持ちました。今まで理解してきた赦しと、主イエスがお語りになる赦しとは根本的に違っていました。「ペテロがイエスのところに来て言った。『主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。』」(21節)赦しについて本当のことを理解できないので、こう問うしかありませんでした。7は聖書の世界では完全数です。徹底的に赦すという話です。

私たちは赦すことの下手な存在です。赦したつもりでも忘れ去ることができません。赦すことができないので、赦されるということが分からない、これが私たち人間の実態です。赦しのないところに、破綻した関係の回復はありません。壊れているのは私たちと神との関係です。神様と私たちの関係がどのように壊れ、深い断絶があるか、私たちはすぐに忘れてしまいます。「イエスは言われた。『あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。』」(23節)1回の赦しさえ完全にすることさえできない私たちに、そんな完全な徹底した赦しなど可能なのでしょうか。自分の中にある、人を赦せない心とどう向き合えばよいか。私と神様の関係を知るためには、神様のなさりようを知る必要があります。

たとえ話はとても単純です。ある1人の家来が王から莫大な借金をしています。1万タラントは返済など決してできない額です。1タラントは6000デナリオンに相当し、1デナリオンは1日の労働者の賃金だと言われます。16年分の1万倍、ありえない数字です。自分も妻も子も持ち物も全部売っても絶対に返済できない金額です。しかしこの家来がしきりに願ったので王は憐れに思って、その借金を帳消しにしてしまいます。この家来が外に出て行くと、自分に借金をしている仲間を見つけます。100デナリオン、頑張れば返済可能です。1万タラント赦された家来は、この仲間を赦さず牢に入れてしまいます。王は怒ります。

赦された者は赦しなさいという話でしょうか。赦しとは何かという話が、このたとえの中心です。ありえない負債を負って返済を迫られる人物、これは私たちのことです。償うことができない重荷を神に対して負っているのです。神と共に生きるように必要な一切の物を備え、神を

褒め称えて生きると造られたのです。しかし私たちは生まれながらにして罪人で、神なしに生きようとしません。神のみ心に背いて歩んで来たのです。それは途方もない額の負債として積み上がっています。終わりの日、神の前に立って払い返すことができない負債として、私たちの前に示されるのです。

赦しとは憐れみだと、このたとえは明らかにします。ただ一方的に神が憐れんでくださって、帳消しにしてしまう、それが神の赦しです。しかも実は、この赦しには大きな痛みを伴っていました。私たちの負債を帳消しにするために、神ご自身がかけがえのないひとり子イエス・キリストを手放してしまわれました。神は私たちの罪を、主イエスの命を代償として帳消しにしてくださいました。私たちは自力では関係を回復することができない神との間に、主イエスによって和解を与えられました。神がわが子よと呼びかけ、私たちの祈りを聞いてくださるようになりました。

やがて弟子たちは、主イエスが何のために地上に来て、誰のために十字架におかかりになったかを知るようになりました。この私の負債を帳消しにし、罪の奴隷から解放し、神の子として生きる者にするために、主は来てくださり、十字架の上で命を与え尽くしてくださいました。主イエスが私たち1人1人に、兄弟を赦して生きれば良い、そうおすすめにになりました。これは赦されるための掟や条件ではありません。愛し合うことのできない者同士が、神に赦されている者同士として、新しく出会い直し、赦し合い、憐れみ合い、愛し合って生きようになるという約束であり、招きなのです。

天の国とは神の圧倒的な赦しが全世界を包み込んでいく話です。神は私たちを変えることができるお方です。私たちをお造りになり、支配し、導き、1人1人から一瞬たりとも目をそらすことなく見続け憐れみ続けておられるお方です。私たちは神に赦された者であることを知って、信じて、神に祈り始めます。父よ、兄弟を赦す者として歩ませてください。そう祈り始めるなら、神はあなたを必ず変えてくださいます。1日1日、神のみ心にかなう姿に変えてくださいます。天の父は、あなたの罪を取り除き、新しい命に生きる道へと解放してくださいました。この聖書の約束は信じて良い真実です。

(記 説教要約奉仕者)